

令和2年3月24日
消 防 庁

「国宝・重要文化財（建造物）等に対応した防火訓練マニュアル」の公表

令和元年10月31日に発生した首里城跡での火災を受け、文化庁において、文化財等の防火対策に関するガイドラインが昨年末に改訂されました。これを踏まえ、消防庁において、文化財等の関係者が実践的な訓練を実施して防火体制の充実・強化を図ることが出来るように、訓練の事前準備から事後検証までの実施方法を取りまとめたマニュアル（以下「防火訓練マニュアル」という。）を策定したので、公表します。

1 防火訓練マニュアルの概要

別紙のとおり。

2 目的

文化財等は、火災等によりいったん滅失毀損すれば、再び回復することができないかけがえのない国民共有の財産であることを踏まえ、火災の早期発見、消防機関への迅速な通報及び初期消火に係る行動に重点を置き、火災による文化財等の焼失リスクが高い状況下（対応者が少ない夜間等）の対応力を強化することを目的としています。

3 防火訓練マニュアルの主なポイント

- (1) 出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等を把握する方法、総合的な火災危険を評価する方法及び総合的な火災危険を低減する方法を示しており、火災のリスク分析や事前対策を行ったうえで実践的な訓練が実施できるようにしています（防火訓練マニュアル別紙2参照）。
- (2) 日中に加え、夜間等の関係者が少ない時間帯に出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等での出火を想定した訓練を実施することが大切です。このため、文化財等における訓練の実例をもとに、日中に加え、夜間、催し物開催時の3つのパターンの訓練シナリオ例を示しており、文化財等の関係者がこれらを参考とすることで、訓練シナリオを作成しやすくしています（防火訓練マニュアル別紙3参照）。
- (3) 訓練時の対応事項チェックリスト及び防火体制の充実・強化に向けた対策例を示しており、訓練実施後、速やかに事後検証（振り返り）を行い、明らかとなった課題に対して必要な対策を講じることが出来るようにしています（防火訓練マニュアル別紙4及び5参照）。

4 備考

「概要」及び「マニュアル全文」については、総務省ホームページ（<https://www.soumu.go.jp/>）の「報道資料」欄及び消防庁ホームページ（<https://www.fdma.go.jp/>）に、本日（24日（火））閣議後大臣会見終了後を目処に掲載するほか、総務省消防庁予防課（総務省3階）において閲覧に供するとともに配布します。



（連絡先）消防庁予防課
鈴木補佐、坂本係長、岡崎総務事務官
TEL：03-5253-7523（直通）
FAX：03-5253-7533

国宝・重要文化財（建造物）等に対応した防火訓練マニュアルの概要

1 はじめに

▶ フランスのノートルダム大聖堂や首里城跡での火災を受け、国宝・重要文化財等において同様の惨事が生じないよう、文化財等の防火対策を一層推進することが求められています。

▶ 本マニュアルをもとに実践的な防火訓練を実施して、

- 火災の早期発見
- 迅速な119番通報（火災を発見したり、自動火災報知設備が作動したら直ちに119番通報）
- 迅速かつ的確な初期消火（複数の消火器や屋内（外）消火栓設備の有効活用）

が出来るようにしておきましょう。



首里城火災（那覇市消防局提供）

2 訓練実施の手順

1 火災危険の把握

建物の平面図等を用いて、出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等をあらかじめ把握しましょう。

マニュアル

2

ページ参照

2 訓練想定（出火日時、出火場所等）の検討

日中に加え、夜間等の関係者が少ない時間帯に出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等での出火を想定しましょう。

マニュアル

3

ページ参照

3 火災発生時の初動対応の確認

訓練の実施前に、守るべき文化財等の明確化、火災の覚知、消防機関への通報、初期消火等の初動対応の具体化をしておきましょう。

マニュアル

3~9

ページ参照

4 訓練シナリオの作成

①～③や個々の文化財の実態を踏まえて訓練シナリオを作成しましょう。

マニュアル

9

ページ参照

5 消防機関等の関係者との連携

消防機関等から①～④について助言を得るとともに、設備の保守事業者等による消防用設備等の操作方法の説明機会を設けるほか、工事や催し物開催時の関係者間の火災発生時の役割分担をあらかじめ明確化しておきましょう。

マニュアル

10

ページ参照

6 訓練の実施

毎年定期的に実践的な訓練を実施し、記録を残しましょう。また、対応事項の手順等を確認するための図上訓練もできるだけ頻繁に行いましょう。訓練では屋内消火栓設備等から実際に水を放出してみましょう。

マニュアル

10

ページ参照

7 訓練の実施結果の検証

訓練実施後に事後検証（訓練の振り返り）を行い、明らかとなった課題に対して必要な措置を講じて防火対策の充実強化に努めましょう。

マニュアル

10

ページ参照

3 訓練シナリオの例（詳細は別紙3）

例1 日中に火災が発生した想定



建物概要

- 文化財の種類：国宝
- ○○城天守閣 木造地上6階建て
- 延べ面積：2,000㎡

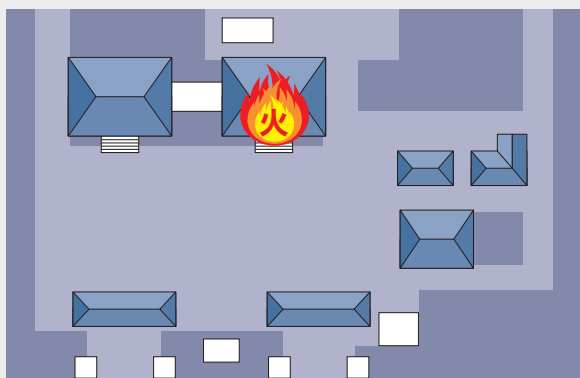
主なシナリオ

- 日中に火災が発生
- 木造建築物の高層階から出火
- 最上階（6階）に避難者多数

期待できる効果

- 日中の観光客が多い時間帯での初動対応
- 上階に観光客が多数いる場合における対応
- 複数の消火設備による初期消火体制の確立

例2 夜間に火災が発生した想定



建物概要

- 文化財の種類：重要文化財（国宝・重要文化財複数保存）
- ○○寺院 木造地上2階建て
- 延べ面積：1,000㎡
- 収蔵品：5件（うち国宝1件、重要文化財4件）

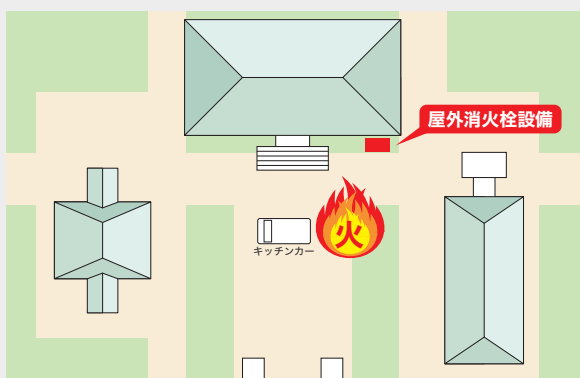
主なシナリオ

- 夜間に火災が発生
- 避難者はいない

期待できる効果

- 夜間の限られた人員での初動対応
- 早期の火災通報（二段通報の実施）
- 複数の消火設備による初期消火体制の確立

例3 催し物の開催中に火災が発生した想定



建物概要

- 文化財の種類：非重要文化財（国宝・重要文化財多数保存）
- ○○博物館 耐火造地下2階地上6階建て
- 延べ面積：20,000㎡
- 収蔵品：11万7000件（うち国宝90件、重要文化財600件）

主なシナリオ

- 日中の催し物の開催中に火災が発生
- 建物への延焼危険あり

期待できる効果

- 日中の催し物の開催時における初動対応
- 催し物の関係者及び自衛消防隊の情報連絡体制の確立
- 延焼の恐れのある建物からの観光客の避難誘導及び優先順を付けた文化財の搬出

4 おわりに

文化財の実態に応じたリスクを検討し、検討結果に応じた訓練を実施して迅速に対応できるか検証しましょう。対応に課題が見つかった場合は、検討や対策を行い、再度、訓練で検証しましょう。